

書評

Irwin M Siegel 著 野島元雄・他 訳

神経筋疾患のマネジメント

明石 謙 (川崎医科大学リハビリテーション科)

最初に今流行りのクイズを、筋肉についてやってみましょう。

① 筋肉はギリシャ語由来の言葉ですが本来の意味は何でしょうか。

② 筋肉はヒトの体重の約何パーセントを占めるでしょうか。

③ 筋肉をエンジンに例えると何エンジンとほぼ同じ効率になりますか。

この本の最初「はじめに」の部分で得られる知識です。

書評としては妙な出だしですが、この本の値打ちは先ず手に取って読んでみて初めて分かるような気がします。したがってとても許された紙数ではカバーできません。しかしとにかく話を進めましょう。

第1部は機能解剖ですが、それでも油断はできません。その第2章は組織学です。ではつぎの問題

④ 筋線維は安静時の長さの何パーセントまで収縮できますか。

⑤ 加速筋と固定筋の例を挙げなさい。

⑥ 筋原線維の長さはどれくらいでしょう。

第3章は筋肉の発育、成長、再生、第4章は筋収縮の分子生物学的基礎、第5章は筋肉のエネルギー代謝、第6章は筋肉の機械的性質と続きます。読んでいて大変面白く、所々に訳者の注があり理解を助けます。

第2部は神経筋疾患の診断です。始めにチャートがあり、さらに5つの表があります。大変要領よくまとめられています。血清酵素、電気生理学、筋生

検、遺伝学、X線、そこまでが第2部です。各章の始めに有名な人達の名言が引用されていますが、これがまた面白い。筋生検のところでは「病理学は悲劇の究極とも言える。生理学は治療の根拠となる基盤である。」またX線の章では「百聞は一見にしかず。」等はなかなか傑作です。

第3部のタイトルは「神経筋疾患の診断と分類」です。しかし内容は「第13章・神経疾患の分類」のみです。普通は診断学というところですが、分類とは思いついた表現のように思えます。しかしこれは本当のことでしょう。白黒ではありますが、病気の特徴を良く捕らえた写真が多数ありよく分かります。

第4部は神経筋疾患の管理、治療です。圧巻ともいべき充実した部分です。筋の弱化では理学療法を中心とした保存的な治療法と注意すべき大切な事項について述べられています。病的生体メカニズムでは筋ジストロフィー症を中心に説明され、外科手術、装具の項ではいろいろな方法が記載されています。下肢と上肢に分けて書かれており、図も多くよく分かります。さらに側彎、骨折、作業療法、栄養、精神・心理、社会問題に至るまで述べられており、総括的、全人的リハビリテーションの立派な指導書でもあります。

リハビリテーション医療に関係する方々や将来の医療を担っていく学生諸君にも御薦めしたい良書です。

(A5判 338頁 6,800円(税込) 1992 三輪書店刊)